

写真-1 揖保川右岸堤防上から畳堤とJR山陽本線を撮影（平成29年9月）

### ■ 交通の要衝だった正條地区

写真-1の左手、ムクノキの辺りは、旧西国街道が一級河川・揖保川を渡る箇所に設けられた「正條（しょうじょう）の渡し場」があった所で、近くには本陣もあったそうです。江戸時代、参勤交代の大名が室津湊に上陸し、そこから室津道を通してこの正條の宿場に着き、1泊して翌日正條の渡しを渡り江戸を目指したとか。また、宿場から北に向かう道は龍野城下に通じています。

このように、正條は交通の要衝であったことから、周辺には旅籠（はたご）、問屋、馬借（ばしゃく）など180軒が建ち並び、この付近では随一の繁栄ぶりだったそうです。渡しに関しては、船問屋が船の乗り降り、荷物の積み下ろし、乗船の順番などを一手に仕切っていて、渡し賃は、大水16文<sup>\*1</sup>、中水8文、干水4文、將軍の御用は無賃でした。

かつて正條の渡し場には、たくさんのムクノキ<sup>\*2</sup>が生い茂っていたそうですが、現在は7、8本のムクノキの巨木があるのみです。この巨木のそばに、右の写真のような「正條の渡し場跡」（背面に平成8年3月 揖保川町教育委員会）と書かれた標柱が立っています。標柱の右側面には「ふるさとの歴史を刻んだ文化財」、左側面には、一部不鮮明ですが以下のようなことが記されています。

「明治のはじめまで、山陽本線・正條鉄橋のやや川下に高瀬舟が浮かび、乗客を待っていた。旅人に乗せた舟が横切っていく。今では見ることのできないのどかな風景であった。」



この渡しは、明治の初めまで続いていたそうです。現在、正條の渡し場跡のすぐ上流には JR 山陽本線・揖保川橋梁と国道 2 号・揖保川大橋が、下流には山陽新幹線・揖保川橋梁が架かっています。(写真-1 参照)

写真-4～6 は、旧西国街道沿いの正條の今の街並みです。歩いてみると、何となく江戸時代の宿場町の風情が感じられます。

写真-4 の道標は明治 15 年(1882)に建てられたもので、「右ひめぢ かうべ 左たつの 山さき道」と刻まれていて、姫路・神戸方面と龍野・山崎方面の分岐を示しています。

写真-5 の手入れの行き届いたカイツカイブキが立っている所が「本陣 井口家」で、家の前には「明治天皇正條行在所」と刻まれた石柱や「明治天皇御駐輦(ちゅうれん) 趾」と刻まれた石碑が建てられています。



写真-4 揖保川郵便局前に立つ道標



写真-5 旧西国街道・右手は正條宿本陣跡



写真-6 旧西国街道・正條の街並み

※1 文(もん): 寛永通宝初鑄時、1 文は鰯(いわし) 1 尾、塩 1 合、餅 1 個が買えた。実際の文の価値は時代により変わったが、1800 年代初頭に十返舎一九が著した『東海道中膝栗毛』では、餅 1 個が 3 文から 5 文、街道の茶屋で酒 1 合が 32 文とある。

※2 ムクノキ: アサ科の落葉高木。ケヤキやエノキの仲間で、成長が早くて巨木になりやすく、その雄大な樹形から天然記念物や御神木とされることも多い。5～6月に花が咲き、秋にできる黒紫色の実実はエノキより大きく、「棕鳥(ムクドリ)」などがよく集まる。甘味があり、人間も食べることができる。根が深く、強風に耐えるため、防風用の樹木として優れている。「棕になっても木は榎(えのき)」という諺がある。これは強情な様子を示したもので、ムクノキの幼木が育って大きくなり、明らかにムクノキだと分かるようになっても、最初にエノキだと見立てた人は最後までエノキだと言い張る様をいう。

## ■ 正條地区にも畳堤

交通の要衝であった正條地区は、渡し場があった揖保川沿いにも多くの人家が連担していたと思われます。そのため、昭和 21 (1946) 年から始まった揖保川改修に際して、龍野町地区と同様に引堤や堤防の嵩上げは難しい状況だったのではないのでしょうか。

揖保川改修工事がどのような順に進められたのか定かではありませんが、畳堤は、当時の龍野町長と姫路工事事務所長とのやり取りの中から具体化していったようなので、正條地区や苅屋地区の畳堤は、龍野町地区の畳堤を参考に地元と協議のうえで同様の工法を採用したと考えられます。

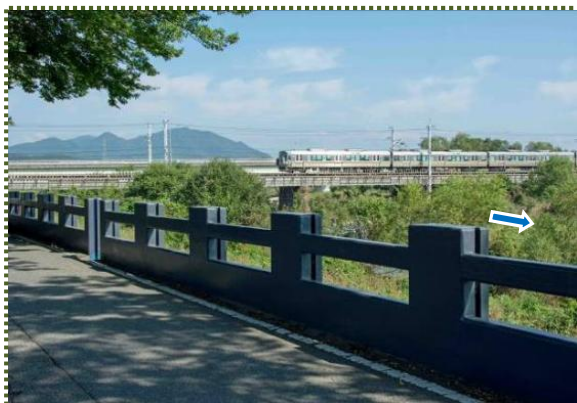


写真-7 正條の渡し場跡付近から畳堤を撮影



写真-8 堤外側から畳堤を撮影



図-1 正條地区の畳堤位置図



写真-9 JR山陽本線を走る電車の窓から右岸の畳堤を撮影

### ■ 平成30年7月豪雨において畳堤設置後初めて畳が差し込まれた

西日本各地に大量の雨を降らせた「平成30年7月豪雨」では、揖保川流域においても降り始めからの総雨量(7/5 3:00~7/7 21:00) 287mmを記録し、7月7日3時には氾濫危険水位(3.50m)を14cm越える事態となりました。

正條地区では、畳堤が設置されて以来、初めて畳が差し込まれましたが、その状況はたつの市危機管理課によると概ね以下のとおりです。

7月7日(土)0時40分に龍野地点で氾濫注意水位(3.00m)を越えましたが、正條地区では前日の6日22時頃から正條自主防災組織(地元自治会)の判断(揖保川の水位状況を見て)により、市に連絡を入れた上で、畳堤の構築作業を開始しています。

まず畳堤の開口部（河原に降りていく階段の設置箇所等）に角落しを挿入し、その背後に土のうを積んで流されないようにしますが、この作業がかなり難航したとか。その後、畳を保管している麦作（ばくさく）センターから畳を運んできて畳堤のコンクリート枠に差し込んでいったそうです。

表-1 からわかるように、夜中の1時 30 分に避難判断水位（3.30m）を越え、1 時 40 分にはたつの市全域に避難勧告が発令され、2 時に氾濫危険水位を越えています。

その時点においても正條地区では畳の差し込み作業が続けられていて、畳 121 枚の差し込みが完了したのは 2 時半頃だったとか。畳堤の構築に 4 時間半要しているわけです。

作業に携わった人数は 20 名程度だそうです。雨中の作業に加えて夜間だったため、かなり過酷な作業だったと思われます。

早めに作業を開始されていますが、残念ながら氾濫危険水位を突破するまでに畳堤の構築を完了させることはできていません。今回の洪水では、洪水痕跡から畳のすぐ下まで水位が上昇しましたが、幸いにも畳堤が効果を発揮する事態には至りませんでした。

なお、正條地区では毎年 7 月上旬頃に活動マニュアルにしたがって防災訓練を実施しており、今回は、直前に実施した防災訓練が役に立ったそうです。

表-1 畳堤構築状況

6日	22:00	畳堤構築に向けて作業開始
7日	0:40	龍野地点で氾濫注意水位を越える
7日	1:22	たつの市全域に大雨特別警報発令
7日	1:30	龍野地点で避難判断水位を越える
7日	1:40	たつの市全域に避難勧告発令
7日	2:00	龍野地点で氾濫危険水位を越える
7日	2:30	畳堤構築作業完了
7日	3:00	龍野地点でピーク水位 3.64m を記録



写真-10 畳堤開口部の角落し設置状況



写真-11 堤内側から見た畳の設置状況（7月13日撮影）



写真-12 洪水痕跡から水位は畳まであとわずか（7月13日撮影）

畳堤は河川管理施設であり、その操作を自主防災組織に任せているわけですが、揖保川水系河川整備計画では、「畳堤」の項で「少子高齢化に伴って出水時における地域の人手不足も課題になってきている。畳堤の今後のあり方については、今後の維持管理を踏まえ、-（中略）-景観と機能確保のバランスを考慮した構造の検討や運用方法について、地域の方々と連携を図っていく。」と記されています。

### ■ 雨が止んだら♪♪♪

写真-10～14 は、洪水終了後の 7 月 13 日に撮影したものです。7 月 7 日に雨が止んで以降、しばらく畳がそのままになっていました。これらの畳は麦作センターに戻して再利用するそうですが、湿った状態で保管庫に戻すと瞬く間にカビだらけになってしまいます。そんなことにならないように、カラカラに乾くのを待っているのです。その方が畳が軽くなって作業も楽です。因みに、実際に撤去したのは 7 月 18 日で、事前に町内放送をしたところ、70 名ほどが集まったそうです。

なお、写真-14のように竹を半分に割ったようなもの、あるいは写真-13のような直方体の木片が畳の下に見えますが、これは濡れた畳を早く乾かせるために、雨が上がってから畳の下に咬ませたものです。雨が止んで以降カンカン照りの日が続いていたので、畳はしっかり乾いたと思います。

また、再利用できなくなった畳は、細断して畑の堆肥にすることができるそうです。



写真-13 堤外側から見た畳の設置状況 (7月13日撮影)

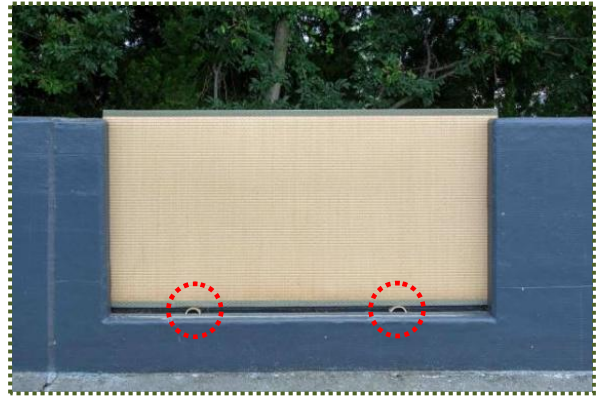


写真-14 畳の下に半分に割った竹を咬ませている(7月13日撮影)

## ■ モノローグ

畳堤が設置されてから70年が経過しようとしています。平成30(2018)年7月豪雨において、初めて正條地区で畳堤に畳が差し込まれました。河川の氾濫に際し、逃げ遅れて命を落とすことのないように、行政から住民に対しては早めの避難を要請している状況から、畳堤の構築については難しい判断が伴うようになってきています。早めに畳堤を構築することは、即ち構築の頻度が増し、高齢化の進んだ地元にはかなりの負担となってきます。かといって、畳堤の構築が遅れると周囲よりも低いいため真っ先に溢水することになります。

先人の知恵で築かれた畳堤なので、安易にコンクリート壁に改築するのは如何なものかと思いますが、想定を超えるような洪水が発生する可能性が高まってきている現状を考えると、今のままでいいとも思えません。景色を見たいのであれば、いっそ窓枠部に透明なアクリル板でも差し込んで固定してはどうでしょうか。

### 【参考資料】

- 1 『はりま歴史見て歩き』 埴岡真弓 平成23年11月
- 2 『播磨の街道～中国行程記を歩く』 橘川真一著 平成16年1月
- 3 『損保川水系河川整備計画(国管理区間)』 近畿地方整備局 平成25年7月
- 4 『たつの市水防計画』 たつの市防災会議 平成30年5月
- 5 『文(通貨単位)、オニユリ』 フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』

### オニユリ(鬼百合)

ユリ科ユリ属の多年草。黒色の斑点模様のある橙色がかかった赤色の花を赤鬼の顔に見立てての命名だと言われているが、ヒメユリ(姫百合)と対比して大きい百合という意味だという説もある。草丈は1～2m程になる大型のユリ。種子は作らず、葉の付け根にムカゴと呼ばれる暗紫色の実をつける。このムカゴが地面に落ちて、そこから根を伸ばし、花を咲かせる。鱗茎はヤマユリと同様、ユリ根として食用となる。開花時期は7月～8月。花弁はオレンジ色、濃褐色で暗紫色の斑点を生じ、花弁は強く反り返る。正條地先の損保川河川敷に咲いていた。(平成30年7月撮影)



写真-15 オニユリ

※発行：平成30(2018)年11月 『ひょうご水百景』No.90

改訂：令和8(2026)年5月 『ひょうご水百景』No.90